

## 附属図書館の紹介

場所 <http://www.lib.kanazawa-u.ac.jp/>

### 金沢大学附属図書館ホームページ

新着情報

- ・ [掲示板](#)  
[1998.1.1  
2]
- ・ [1月の開館カレンダー](#)

中央館利用案内

- ・ [図書館利用案内1997](#)
- ・ [CD-ROMコーナー案内 \[New!\]](#)
- ・ [User's Guide 1997](#)

広報

- ・ [沿革と統計](#)
- ・ [館報『こだま』](#)

実用的な情報

- ・ [リンク集](#)
- ・ [CD-ROMサーバ利用案内](#)
- ・ [マニュアル](#)

分館ホームページ

- ・ [医学部分館ホームページ](#)
- ・ [工学部分館ホームページ](#)

元日登城 (『儀式風俗図絵』)

文書: 完了.

### 【はじめに】

附属図書館のホームページには、所蔵資料の中から「加賀藩年中行事図絵」「儀式風俗図絵」の画像を取り込んでいます。ほぼひと月ごとに、その時期に合ったテーマのものに差し換えています。背景やボタン等の装飾を避けたため派手さはありませんが、金沢らしい落ち着いたビジュアルを心掛けています。

### 【内容】

内容は、新着情報・利用案内・広報などを柱に、主として学内利用者向けの情報を発信しています。

特に重要なのは、新着情報を扱う「掲示板」です。開館・休館や各種講習会・催し物の案内、新しいサービスの紹介など、頻繁に更新されています。年4回発行の図書館報「こだま」に先行して掲載される記事も多くなっているので、更新年月日に注意して時々開いてみることをおすすめします。

「中央館利用案内」は毎年発行されている「図書館利用案内」を、「沿革と統計」は「金沢大学附属図書館概要」をもとに、さらに新しい情報を加えて提供しているものです。冊子体以上に、図書館のより詳細な利用方法を知るのに役

立ちます。

「こだま」も、最近のバックナンバーから最新号までテキスト化し、これまで以上に広く図書館の活動をお知らせできるようにしました。

また「リンク集」は、図書館関係はもちろん、マスコミや北陸地方に密着したホームページに重点を置いてリンクをまとめました。

「マニュアル」には、OPAC やCD-ROMサーバの詳細な利用法を掲載しました。特に平成9年度は、「雑誌記事索引」「Social Sciences Index」などネットワーク対応のCD-ROMソフトが大量に導入されたこともあり、CD-ROMサーバに関する情報を中心にマニュアルを準備しました。コンピュータの操作に不慣れな利用者を考慮に入れ、今後もホームページによるきめ細かなサポートをおこなっていく予定です。

### 【今後の課題】

現在最も重要な課題は、目録所在情報の提供であると考えられます。具体的には、OPAC をホームページから検索できるシステムを整備することです。しかし、業務システム全体の根本的な見直しが必要になることもあり、導入が先送りされているのが現状です。このサービスを望む声は、学内のみならず学外からもメールで寄せられています。また多くの利用者が簡便なユーザーインターフェイスに慣れ親しんでいる現在、当館の OPAC 検索システムは決して使い勝手の良いものとは言えなくなってきました。おりしも、総合目録データベース検索サービス”NACSIS Webcat”が学術情報センターにおいて試行（平成9年7月現在）されるなど、WWWによる目録情報提供が急速に一般化されつつあります。将来のホームページの充実のためには、最優先の課題であると考えられます。

### 【おわりに】

ここ数年、ネットワーク対応のCD-ROMデータベースの普及や、学術情報センター”NACSIS-ELS”に代表される電子図書館システム実用化の動きなどに見られるとおり、図書館を取り巻く環境は大きな転換期を迎えています。また利用者においても、特にこれらの技術面に対する関心が少なからず高まっているようです。新しいサービスを提供する側も利用する側も、技術や制度に関する最新かつ正確な情報を得ることが必須になってきています。

正確な情報という点では、最近、インターネット上に溢れる情報の信憑性が問題視されはじめています。特に電子メールの普及によって、誤った情報でさえも安易に広範な人たちに伝えられてしまい、当事者間に不要な摩擦が生じるというケースもよく耳にします。

急速に進歩する図書館サービスにおいても、利用者が誤解を招きやすいような情報が、最近特に増えてきているように感じられます。そのような混乱を避けるためにも、新しいサービスに関する正確な情報を広報しかつ合理的な説明をおこなうことは、図書館の大切な使命であると考えられます。したがって、ホームページやメールボックスの開設など、利用者とは忌憚なく意見交換できる機会の確保は、今後ますますその重要性を高めるものと推測されます。

信頼できる情報を知りたい時に入手できるという点で、ホームページは図書館にとって欠く事のできない大切な窓口となっています。これからもたくさんのアクセスをお待ちしています。

(文責： 附属図書館情報サービス課システム管理係 堀口 純夫)